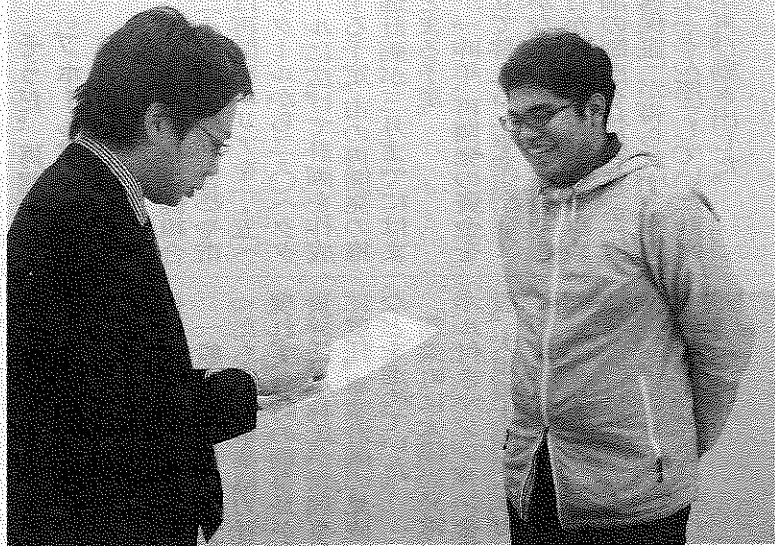


初めて高専学生採用

プロジェクト設立目標のひとつ達成

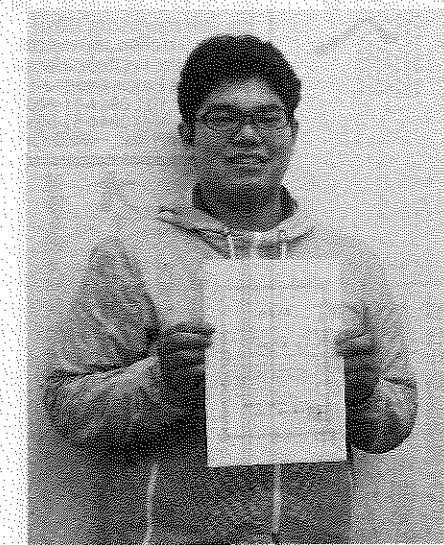
中心商店街をアメリカのシリコンバレーのように、IT関連企業が集まる場所にしようと取り組んでいる、まちなかシリコンバレー。中心企業の株式会社ASK(アスク)プロジェクト(橋爪康知代表取締役社長)は今年初めて、有明高専専攻科を卒業した学生を新卒採用。事業を、さらに拡大していく。



事務所であった内定通知

アスクプロジェクトは「せっかく専攻科を卒業した学生が、地元で就職できるような企業がない。地元を受け皿となる企業があれば、地元も活性化する。そしてIT企業の研究拠点となれば」ということから佐賀市の木村情報技術株式会社との関連会社として平成二十五年に設立。

電子情報工学科専攻科の学生が、自分たちが研究した成果を製品化したり、地域企業のIT化を手伝ったりしている。これまで、大牟田商工会議所から洋風かつ井のプロジェクトとしてホームページ作成、マップ、パンフレット作りを受注したり、タブレット端末を使った民生・児童委員の報告書作成アプリ(ソフト)を開発。佐賀市が試験運用するなど成果を上げている。



内定を喜ぶ近藤君

昨年、野口卓朗副社長(佐賀大学院生)が、十二月に五日間、不知火町の商工会館で開かれた、イベント「ともだちや絵本ギャラリー」に実行委員として参加した。

大牟田をIT集積地に 卒業予定の近藤さん語る

来春採用予定なのは専攻科二年生の近藤一輝さん。在学中からシリコンバレー構想に携わり、卒業後アスクプロジェクトに入社したいと願っており、今年、夢がかなった。

昨年末に、同社の野口卓朗副社長から内定証書を手渡された近藤さん。「専攻科卒業生としては第一号。大牟田で学んだことを地元大牟田で働き、地域貢献できるのはうれしいですね。四月からはシステム開発だけでなく、なんでもやっつけていかなければと思

生を新卒として採用できるように、そして就職先のひとつに選んでもらえるよう頑張ります」と張り切っている。

野口副社長は「会社立ち上げから三年ほどで、目標のひとつだった有明高専の学生を新卒採用することができました。これからも、有明高専の学生たちと協力し事業を拡大。採用できるようにしていきたいです」と話した。

近藤さんは「シリコンバレーの構想の目標のIT企業が集まるためにも頑張っていきたいですね。そして市外に就職した学生が、独立開業したときに大牟田があるという選択肢のひとつになるようにしていきます」と力を込めています。



ついでいます。来年また卒業